

さっぽろ 市議団ニュース

2013年10月28日
No.91

日本共産党市議団事務局発行
電話 211-3221 FAX218-5124

市電の“早期延伸”の実現を 決算委 伊藤議員が質問

伊藤理智子議員は10月22日の決算特別委員会で、「すでに市は延伸の方向を表明しているが、具体的な検討はどのようにすすんでいるのか。『市電の延伸を求める集会』で出された声をどのように生かしていくおつもりか」と質しました。

佐藤路面電車担当部長は「ループ化と同時並行で延伸のための調査等を行っているが、進め方としては、ループ化後の効果等を検証しながら、3地域（札幌駅、桑園駅、苗穂駅）の特性も踏まえ、検討を進めていきたい。市民団体の要望は“JRとの接続など利便性を高める延伸を確実に進めてほしい”というもの。市電は市民の身近な足であり、新しい回遊性を高め都市生活を豊かにするもので、札幌の新たな魅力となると期待している。今後とも市民の方々の様々な要望を受け止めて進めていく」と答弁。

伊藤議員は「欧米の主要都市では一度廃止した路面電車を全面復活し、車の乗り入れも禁止し街の活性化につなげている。ぜひ『人と環境にやさしい市電を街づくりにいかす』という立場で、市電の早期延伸の実現を」と、強く求めました。

発達医療センターの移転で 子どもの訓練機会を奪うな 井上議員が要求 決算委

井上ひさ子議員は10月24日の決算特別委員会で、発達医療センターの移転によって、障がいのある子どもの訓練機会が失われることのないように求めました。

その中で井上議員は、相談者の「現在4歳の子、歩けないかもしれないと言われたが、発達医療センターで訓練して何歩か歩けるようになった。本当に嬉しい…もっと伸ばしてあげたい。でも移転すると遠くて通えない」という声を紹介し、移転先の平岸にも、みかほ整枝園にも通えないという方が札幌の西部地域に多いのではないかと。子どもの訓練機会が失われないように、どのような検討をしているか。“治療・リハビリで機能を回復した”と親にとっても子どもにとってもなくてはならないトリデ。増員も含め体制強化を図るべき」と求めました。

難波児童福祉総合センター所長は「実施したアンケートによると、移転先の平岸にも、みかほ整枝園にも通えない方が西区・手稲区方面で9人いる。訓練機会を確保するよう検討をすすめているが、もう少し時間がかかる」と答弁しました。

井上副市長は「訓練機能が失われないように、アンケート結果も参考にさらに検討していきたい」と応じました。